

# 1 復興座談会での地域・PTAの意見

| 検討項目           | 内 容  |  |
|----------------|--|--|
| 避難所の運営         | 意見・要望<br>PTA   | 学校避難所で、教員が主体となって運営を行っていた。学校と行政の連携が必要ではないか。   |
|                |  | 発災後、避難所として体育館を開けるまでに時間がかかった。PTAで鍵を保管することはできないか。  |
|                |  | マスメディアが誤った情報を流すなど統制がとれていなかった。児童を守るためにも情報統制は、きちんとして欲しい。                                 |
|                |  | 地域の自主防災クラブ等で、災害時のリーダーを決めておいてはどうか。  |
|                |  | 自治会の役員は高齢化しているので、体育協会や子ども会等の若手を活用できないか。  |
|                | 地域のまつりが活発なところは連携して活動できたので、地域のまつりを活性化させるための予算措置をして欲しい。            |  |
| 意見・要望<br>地域    | 学校の備蓄倉庫が開けられたのが翌日だった。自主防災クラブ等で予備の鍵を保管できないか。                      |  |
|                | 備蓄倉庫が奥まった不便な場所に設置されている学校がある。物資の搬入等を考慮した位置にしたほうがよい。               |  |
|                | 本震後、運動場の鍵が開いていない学校があった。緊急時には、自治会、地域、行政が一体となって災害にあたる体制が必要。        |  |
|                | 休校の間、小中学生がボランティア活動を行い、避難者から感謝された。                                |  |
| 避難所の安全性        | 意見・要望<br>PTA   | 校舎の復旧にどの程度の時間を要するかが知りたい。   |
|                |  | 学校施設は、避難所として指定しているならば、体育館などは壊れるような造りではいけない。  |
|                | 意見・要望<br>地域  | 校舎に亀裂が入っていたり、地盤が沈んでいるところも見られる。小中学校が指定避難所となっているが、その指定を見直す必要があるのではないか。                   |
| 児童・生徒の<br>学校生活 | 意見・要望<br>PTA   | 学校の再開までに時間がかかったので、児童生徒の学力に差が生じているのではないかと懸念がある。土曜授業の復活等工夫をして欲しい。                        |
|                |  | 学力だけでなく、体力も減退しているため、その面のケアもお願いしたい。   |
|                |  | 被災して転校した児童が、転校先でいじめにあったと聞いている。校区外からも元の学校へ通えることがわかっていたら防げたかもしれない。転校の相談には、親身になって対応して欲しい。 |
|                |  | 児童の「心のケア」については、学校だけでなく、家庭でもできるようアンケート等の情報を共有するとともに、家庭でのケアの方法を教えて欲しい。                   |
|                |  | 障がいのために保護者が気兼ねし、避難所へ行くことができなかった子どもたちがいる。そういった特別支援学校の生徒への対策を検討して欲しい。                    |
|                | 通学路上に空き家となっている半壊家屋があり、いつ倒壊するかわからない。こういった場合には、通学路の変更など柔軟に対応して欲しい。 |  |
| 意見・要望<br>地域    | 避難所に行っていないくても、車中泊をしてきた子どももいる。そのような子どもたちのカウンセリングを実施して欲しい。         |  |
|                | 震災ストレス障害は、目に見えないという。子どもたちへの臨床心理士によるストレスケアをお願いしたい。                |  |
| 今後の防災対策        | 意見・要望<br>地域  | 防災意識が高まっている今こそ、防災訓練をするよい機会だと思う。  |
|                |  | 避難所等で少ない物資を分け合いながら過ごしたためか、より地域の連帯感が生まれた。   |

## 2 避難所対応に関する学校からの主な意見・要望等

| 検討項目              | 内 容   |  |
|-------------------|-------|--|
| 教職員の運営<br>関与      | 意見・要望 | <p>災害時の学校の役割を明確化する必要がある。災害時においては、学校の立場は学校再開が第一であると考えている。</p> <p>避難所対応で学校職員に負担を負わず、教育に専念させてほしい。</p>   |
| 指示連絡体制            | 指摘事項  | <p>指揮命令系統が曖昧で、現場はどこの指示（区役所、市教委）を聞けばいいのか混乱した。</p>   |
|                   | 意見・要望 | <p>市教委も含め、市内部での情報の共有化と避難所（学校）への早期の情報提供が必要である。</p> <p>今回の事態をもとに避難所運営の方法を再考してほしい。もっとシステムティックに。また、変化を早く感じて方針を決めてほしい。個々の状況の対応が出来なさ過ぎる。</p> <p>市教委は、必要に応じて校長会会長や副会長ともっと協議してほしい。現場を混乱させる通知が多かった。</p>   |
| 開設準備              | 指摘事項  | <p>地震の後、すぐ学校に向かったが、交通渋滞で時間がかかった。避難所の開設が遅れてしまった。状況によっては、管理職が学校に行けないことも予想されるので、すぐ開設できるようにしておく必要がある。</p> <p>緊急時に学校を避難所として開設する担当職員の即時対応をお願いしたい。避難者が窓ガラスを割って入ったり、備蓄倉庫の鍵を工具でこじ開けたりした。</p>  |
|                   | 意見・要望 | <p>学校職員が学校に到着するまでに時間がかかるので、避難所開設までに相当の時間がかかるが、避難者はすぐに学校に避難してくる。事前に市の担当職員に鍵のありかを知らせておくなどの工夫が必要。</p>   |
| 運営体制              | 指摘事項  | <p>政令市は、24時間交替制の宿泊で対応しているが、市職員は夜勤もなく帰宅。止む無く、夜の避難者対応のため、学校側で夜勤のローテーションを組むことになった。</p> <p>避難所開設後の施設責任者としての対応方法についての理解不足であった</p> <p>避難所運営については、学校も含めた役割分担が不明確であり困惑した。派遣職員の引継ぎがうまくできていなかった。派遣職員を避難所ごとに固定化してもらいたい。</p> <p>熊本市の避難所マニュアルに示されている「開設責任者」と「管理・運営責任者」の役割が守られておらず、開設責任者が管理運営まで担う期間が長く、学校の負担が大きかった。</p> <p>地域や自治会の協力が得られた学校と得られなかった学校があった。</p> |
|                   | 意見・要望 | <p>区役所と学校との連携をスムーズに、情報の共有化（ほぼ連携が取れてなかった）</p> <p>校長が直接行政に意見や相談ができるルートの確保。（他市の応援職員のための期間あり）</p> <p>熊本市から派遣された職員と学校職員の役割を明確にすべき。</p> <p>市職員の配置は、校区に住居のある方にして、メンバーも固定し一週間継続して本部を運営できるようにした方がよい。</p>  |
| 避難所マニュアル等<br>の見直し | 指摘事項  | <p>災害におけるマニュアルが全く機能していなかった。</p>  |
|                   | 意見・要望 | <p>実効性のあるマニュアルになるよう見直しが必要。</p> <p>マニュアルを現場の声を十分聞きながらきちんと見直し・検討して、作り直す必要がある。</p>  |
| 物資の備蓄体制           | 指摘事項  | <p>学校では保管場所が不足しすべての備蓄は学校では難しい状況である。</p> <p>備蓄倉庫用品の中に水がなかった。見直しが必要。</p>   |
|                   | 意見・要望 | <p>備蓄倉庫の点検は、改めて各区役所で行うべきではないか。備蓄倉庫の充実を。</p>  |
| 災害復旧              | 意見・要望 | <p>損壊した体育館に対して今後どのような対策がとられるのか、できるだけ早く今後の取組の見通しを教えて欲しい。体育館がいつから使えるようになるのか見通しが立たないと、今後の学校運営の見通しを立てづらい。</p>  |
| 今後の防災対策<br>について   | 意見・要望 | <p>学校を避難所にするなら、それなりの設備や施設が必要（バリアフリー化、エレベーター、発電機、ポンプ、電話等）</p> <p>地域の方に協力をいただくためにも、熊本県地域防災リーダー研修「火の国ぼうさい塾」（3日間、1月末～2月上旬の土日実施）の受講者を計画的に増やしていく。地域防災の核となりうる。</p> <p>避難所開設から運営のための実践的訓練が必要（横浜市は実施しているらしい）。</p>   |

### 3 市職員の意見

| 検討項目   | 内 容   |  |
|--------|-------|--|
| 情報連絡体制 | 指摘事項  | <p>避難所対応職員への情報提供が少ない。</p> <p>年度初めで、学校管理職の緊急連絡先、携帯電話のメールアドレス等の整備が十分できていない中で地震が発生したため、避難場所の開設に時間がかかった学校があった。</p>   |
| 運営体制   | 指摘事項  | <p>学校施設避難所では、先生方はボランティアと話し合いながら、効率よく動かれていた。</p> <p>避難所における行政・学校・地域の役割分担が不明確であり、避難所によって運営体制がばらばらであったため、そこでの市職員の役割がどのようになっているか把握することが困難であった。特に、避難所における地域住民を中心とした運営ボランティアとのかかわり方が、地域ごとに事情が異なることもあって大変難しく、担当避難所を移るたびに戸惑った。ただ、地域との役割分担を事前に明確化することはかなり困難であると思われる。</p> <p>早期に避難所(学校)の運営について、自治会、民生委員、防犯協会、青少協、PTA、親父の会等の地元の団体と打合せの場を設定することができ、地元の支援が得られたため、大変助かった。初期段階で、地域の協力が得られるかで、避難所の運営は大きく違ってくる。</p>   |
|        | 意見・要望 | <p>避難所に配置される職員が日ごと変わるため、避難所及び避難者の状況把握がうまくできていなかった。避難者にとって職員の固定化は必要である。職員の負担も考えなければならないが、ターム設定により、一定期間の固定化は図らなければならない。</p> <p>学校に設置された避難所においては、避難所ごとに学校のかかわり方が違うこともあって、学校側(校長、教頭ら)との対応に苦勞することがあった。また、一般の教員の役割が不明確であり、職員からどこまで運営業務をお願いしてよいか分からず、教員自身も戸惑っていたと思われる。平時から市と学校との間で認識を共有し、行政と学校の役割分担についてあらかじめある程度決めておく必要があると感じた。また、教員の役割がはっきりしていれば、マンパワーが不足する状況下でも、もっとスムーズに避難所運営ができたと思う。</p> <p>災害発生直後は自治会・学校の協力が必要不可欠であり、あらかじめ学校を避難場所と想定した避難訓練や、地域住民をボランティアに導くための炊き出しイベントの実施など、日ごろからの防災訓練を通じて継続的な協力体制を構築しておくべきであった</p> <p>自治組織が機能していない避難所でも、部屋毎にリーダー、サブリーダーなどを選出いただき、運営側と情報交換を行い、ニーズを把握するとともに、避難される方と支援する側のお互いが協力することによる、より良い避難所運営ができる仕組みの必要性を感じた。</p> <p>避難所運営に当たっては、学校や地域の意向もあることから、学校施設の管理者と地域役員と一緒に運営や閉鎖時期の目処について話し合う時間が必要。</p> |
|        | 指摘事項  | 九州北部豪雨の教訓があるにもかかわらず、マニュアル等が整備されていないところからすると、全体的に個々の「現場対応能力」に頼っているのではないかと。  |
|        | 意見・要望 | 避難所運営マニュアルにおいては、画一的な運営手法を設定するのではなく、今回の各避難所での運営手法をしっかり評価検証し、ケースごとの運営視点(発生する課題と取り組み)として取りまとめた方が有効的と思われる。   |
| 施設の安全性 | 指摘事項  | 本震後、体育館倒壊の危険性を考慮し、当初、体育館の中にいた避難者を運動場に避難させたが、続々と避難者が来て勝手に体育館に入られた。最終的に体育館と運動場のどちらに避難させるべきかの判断ができなかった。   |